

平山議員 3番、平山です。通告どおり、牟岐町の都市交流について質問させていただきます。本町の都市交流は、1966年に徳島県美馬市（旧美馬郡脇町）と提携し、1983年には、台湾の彰化県埔塩郷と姉妹都市提携を結んでいます。姉妹都市間の交流とは、文化・教育・スポーツ・イベント・物販・人的交流などの幅広い分野で、都市間の親交を深めることのできるものであります。全国的に人口減少・高齢化が深刻化しているからこそ、関係人口を増やす意味でも、縁を大切にしていきたいところであります。現在、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にありますが、世界的に収束は依然見通せず、人と人との交流は抑制を余儀なくされています。このような状況ではありますが、交流人口を増やしたい本町において、アフターコロナも踏まえ、今後の都市交流についてお伺いします。はじめに牟岐町の過去を遡ると、数々の都市交流がありましたが、ここ最近の姉妹都市との交流はどのようなものがあつたのかお聞かせください。次に、テクノロジーの進化やコロナ禍により、リモートなど人との交流手段が多様化しましたが、今後、姉妹都市とどのような交流を進めていきたいのか、考えをお聞かせください。最後に災害を想定し、お互いに協力し合える災害時応援協定提携を結ぶ自治体が2000年頃より増えてきています。災害の種類や風土、町の規模などを考慮した上で新しい都市との提携を結ぶことも含め、町としての考えをお聞かせください。以上、答弁よろしくお願ひします。

一山議長 枳富町長。

（枳富町長 登壇）

枳富町長 平山議員の「牟岐町の都市交流について」のご質問にお答えします。最初に、これまで牟岐町が姉妹都市を結んだのは、記録では、1966年（昭和41年4月1日）に美馬郡脇町と、1983年（昭和58年7月22日）に台湾の彰化県埔塩郷と結んだ経緯があります。①のここ最近の姉妹都市との交流はどのようなものがあつたかというご質問ですが、美馬郡脇町については、当初は姉妹都市としての交流はあつたと思われませんが、少なくとも年号が平成に入ってからには姉妹都市として交流した記憶はありません。台湾の埔塩郷については、1988年（昭和63年）までは、相互訪問するなどした記録はありますが、その後、行き来がなくなり、1999年（平成11年）の台湾地震に際して義援金を送ったのを最後に20年近く交流がありません。昨年2月、台湾の

埔塩郷のある彰化県出身の大学生が実習前に徳島の関連資料を調べていたところ、彰化県埔塩郷と徳島県牟岐町のつながりを知ったことから、徳島県でインターンシップを行った際、牟岐町役場を訪れたことはあります。台湾につきましては、今年6月に石川県加賀市長が発起人代表となる、日台共栄首長連盟に加入しました。7月30日現在で、加入している63の首長連盟の自治体にマスクの寄贈を受けました。牟岐町におきましては、1万枚のサージカルマスクの寄贈を受けました。②の今後、姉妹都市とどのような交流を進めて行きたいかのご質問ですが、以前の姉妹都市は、相互訪問による親睦を深めるのが目的であったと思われませんが、今後は、災害時にお互い助け合えること。また、平時からお互いに協力できる事案等を考え、地理的、規模的な要件を考慮し、それぞれの目的にあった都市と姉妹都市関係を築けるよう努力していきたいと考えています。③の災害を想定しお互い協力しあえる災害時応援協定締結を結ぶ自治体が増えてきている。災害の種類や風土、町の規模などを考慮し、新しい都市との連携を結ぶことも含め、町としての所見を伺うとのご質問ですが、牟岐町においては、隣接の美波町、海陽町とともに、阿南市、那賀町と1市4町で、生活圏が密接していることから、平時より政策において、連携と協力により圏域全体の活性化を図るため、南阿波定住自立圏共生ビジョンを策定し、お互いに連携を図っているところです。災害時におきましては、被災箇所が牟岐町内に限定される災害であれば、隣接の美波町、海陽町に協力をお願いしますが、災害が県南に及ぶ場合は、これが困難なため、その場合を考慮し、徳島県及び県内24市町村で災害時相互応援協定を結んでいます。しかしながら、南海トラフ巨大地震になると徳島県全体が被災する恐れがあります。このため、南海トラフ巨大地震の影響を受けにくい日本海側の鳥取県の岩美町、若桜町、智頭町、八頭町と危機事象発生時相互応援協定を結ぶとともに、宮城県蔵王町、秋田県東成瀬村、新潟県出雲崎町、長野県下條村、長野県大桑村、岐阜県海津市、大阪府河南町、奈良県五條市、奈良県野迫川村、奈良県十津川村、宮崎県高原町、熊本県錦町と牟岐町の13市町村で、砂防関係協力市町村災害時応援協定を結んでいます。昨年7月の熊本豪雨で人吉川が氾濫し、甚大な被害があった際には、熊本県錦町から支援要望を聞き取り、災害時応援協定を結んでいる市町村間で協議し、見舞金を送るなどの支援を行いました。今後とも、災害の種類を想定し、町の規模なども考慮しながら、災害時の連携の取り組みを行っていきたくと考えています。以上です。よろしく申し上げます。

一山議長 平山議員。

平山議員 姉妹都市との交流について、長年交流が薄くなっているということで、今後は、進めていきたいというような答弁をいただきました。現在、本町では、地方創生や人口減少対策として、関係人口の増加に向け、たくさんの取り組みがなされています。そこに姉妹都市間の幅広い分野の交流も加え、より活発で活力ある牟岐町を目指していただきたいと思っています。もちろん、我々議員としても、積極的に参加していきたいと思っています。また、台湾の埔塩郷とは、再来年で提携40年を迎えます。再来年はまだコロナ禍であれば、例えば、「ともにコロナを乗り越えよう」のようなテーマで、式典に代わるお祝いの方法も考えられます。ぜひご検討いただければと思います。災害時応援協定提携についてですが、現在、町長もおっしゃられたとおり、大規模災害ですと広範囲で被災するため、都市間との支援は難しくなりますが、小規模・中規模災害では、互いに復旧復興に向け協力し合うことが可能です。現在、協定を結んでいる近くの市町村であったり、遠くの日本海側であったりとかの平常時の状態からも、防災力をお互い高め合うような関係性をもっと築けるような気がします。本町の防災力を高める1つの選択肢として、検討していただくことを願っています。以上で、私からの質問を終わらせていただきます。